

ちよいワルオヤジの古代史エッセー
第五回「古代史を楽しんで」—ミステリー？

大和川 一路

1. 対馬と壱岐
2. 釜山へ
3. 海峡をつなぐ光と影
4. 八女のお茶畑
5. ミステリーツアー（番外編）
6. 博多祇園山笠の時

1. 対馬と壱岐

ポッターさんってご存じですか？『法廷通訳人』丁海玉を読んで知りました。

「大阪では韓国からやって来るポッターさん、いわゆる行商のような運び屋のおばさんたちが商品を簡単に卸していくシステムがあるらしい」

「個人で食品や雑貨などを手荷物として韓国と日本を行き来して商売をする人」を指すそうだ。（注釈1）

2019年訪日韓国人558万人、訪韓日本人327万人。その差が231万人も訪日韓国人が多く気になっていたが、ポッターさんで増えているのだろう。

対馬でも40万人が韓国から来ると聞いたが、多くのポッターさんがいたのではなかろうか。

『魏志倭人伝』に「居る所絶島にして、方四百余里可り。土地は山険しくして、深き林多く、道路は禽鹿の径の如し。千余戸有り。良田なく、海の物食らいて自活す。船に乗りて、南北に市糶す」と対馬の自然や暮らしぶりが記録されています。

市糶すとは交易のことで、対馬の民はイカの干物や塩漬けを作って、半島にお米を求めに行っていた。

しかし、釜山沿岸は海鮮が豊富で倭の交易品がそんなもので通用するのだろうか？

“魏使の逆コースを辿る”のに、あとは対馬と釜山が残る。福岡に移住した今でしょう！と云うことで、観光ツアーでビートルに乗って対馬に行った。急峻な山には木も育ちにくい、田んぼもない、堆積岩の崩れる島を実感できる。比田勝の韓国展望台から釜山はすぐそこ、いたる所にハングルの案内がある。ホテルに戻り路地をあちこち探索するが、スナックも居酒屋も閉まっており、この町もコロナで相当打撃を受けている。

厳原の港でイカをぶら下げてクルクル回る機械を見たが、あれは水切りと天日干しと平たくする三工程を一気にやってのける優れモノだ。日本人は創意工夫が命綱。

スルメ、サキイカ、塩辛とイカは加工することできっと付加価値が高まるのだろう。

宍岐には2016年4月にハノーバー会の旅行で行った。一支国の王都原の辻や双六古墳で古代史の勉強を一通り済ませ、あとは利き酒「宍岐の島焼酎」を十数本も買い込んで、みんな調子良かったんだろう。「塞神社」でさらに調子が良くなって、還暦を過ぎたおじさんたちの恥ずかしい写真が残っているが、判断能力があるうちに削除せねばならない。

宍岐に比べ対馬は寂しくて可哀そうに感じます。「対馬の盆踊」がユネスコ「風流踊」に追加されてもどおってことはないし、「ゴーストオブツシマ」なんてゲームが流行っていることさえ知らない。蒙古襲来や国書偽造や密貿易や、なんともしんみりしてしまいます。毎日アナゴを食べて、対州馬の頭を撫でて、国境の島にやっこ行けた記憶が残ります。

注釈1 新聞のコラム「関釜連絡船は日韓国交樹立後、関釜フェリーとして復活。ソウル五輪の少し前、この船に乗って韓国へ取材に行った。船内は、大荷物を抱えた、いわゆる“担ぎ屋”のアジュマ（おばちゃん）で、いっぱいだった」

2. 釜山へ

ところで、韓国の戦後とはいつからなのだろう？ 休戦中だから戦後はまだか？

『国際市場で逢いましょう』（監督ユン・ジェギョン）を何度も観たし、薦めもした。朝鮮戦争の興南撤収、西ドイツへの釜山労働者の出稼ぎ、ベトナム戦争への傭兵派遣、離散家族探しが主人公の生きた時代である。釜山の国際市場を離れようとならないのは、興南撤収の時、アメリカの軍艦に乗り込む際に手を離して、海に落ちてしまった妹を待つためだ。行方知らずの妹はアメリカ人の養女となっており、離散家族探しで再会する物語。

『めんたいぴりり』も大好きだ。（注釈2）戦後、釜山から引き揚げ、釜山で食べたキムチ漬けから明太子を作り上げた「博多中洲 味のふくや」さんの物語。

のぼせもんの気前良さがたまらない。櫛田神社の特別席で一度は「追い山」を見てみたい。オールディーズに先輩と行った時、滅茶苦茶な大集団に出くわし、酔っぱらって破茶滅茶になり、ツイストかジルバか知らんけど無茶苦茶なダンス大会を経験し、楽しかった。

その方々は中洲流のご一行様、山笠の打合せの二次会かもしれません。

そんなこんなで、“釜山に行かねば”コンセンサスが形成されていったのです。

いくら「待つのが祭」と云っても、待つこと3年間、もう海外旅行は歳との競争である。

『サウンド・オブ・ミュージック』を何回も観て、ザルツブルグに行きたくなった田主丸の先輩は「エーデルワイス」を書き写し、カラオケのスタート曲に仕上げてしまった。

「オーストリアのレストランで歌ったら“おひねり”がもらえますよ！」

トラップ大佐のような弾き語りまでやってしまうかもしれない。

喜寿にして声が出る、リズムが抜群の元ドラマー。今暴走老人とは逆に、若き頃の暴走が

年を重ねて艶っぽい。こういう方をちょいワルオヤジと云うのだろう。
本当に心待ちにしていたようだ。パスポートを取り直したのだ！
向上心も好奇心も膨らませ、「しょぼしょぼの老人にはならねえぞ」って、心の置き所を
リスペクトします。

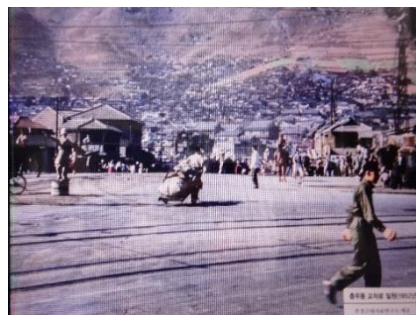
春には規制は解除され、博多港からクイーンビートルに乗って釜山に向かった。
初めての二人は「アンニョンハセヨ」「コマスニダ」「オモニ」「マシソヨ」から、必要の
ない「アガシ」「サランヘヨ」まで覚え、準備万端だ。
今回は金官伽耶や大伽耶には行かない。
「歴史直視」と「市井の人々」と「カジノ体験」だけの手づくり旅で欲張らない。

『国立日帝強制動員歴史館』このおどろおどろしいネーミングは『安重根義士記念館』と
同じで「よお〜し、見てやろやないか」という気持ちにさせる。2015年開館の官製民族
主義を喧伝する施設なのだが、反日勢力により像も歴史館も増えていく。
大統領が“脱反日宣言”をしたとて、また次の政権で逆ブレするかもしれないと多くは言う。
元在日二世で帰化した方の父親（慶尚南道出身で播磨造船所に勤務）の給与明細（昭和17
年から20年）が見つかり、「徴用満期慰労金」も支払われていたという。
韓国人から日本帝国主義の亡霊が消えるのは、もう100年は必要なのだろうか。



暗い歴史館の後はカラフルな文化村の見物にした。
『甘川文化村』なんて最近まで聞いたことなかったが、
RKB ラジオを聞いて日本語を勉強しているタクシー
おじさんが撮影スポットまで連れて行ってくれた。頂
上から広がる景色に見入った。
しかし、どうもタクシーおじさんの話しを聞くと違う
みたいだ。

「ここは哀しいところ。韓国の若者は誰も行かない。年寄りだけしかいない」
韓国ドラマを見ると分かるが、丘の上は貧しい人が住む場所だ。財閥は平地の豪邸に住ん
でいて、貧しい若者が帰宅する場面や恋を告白する場面の多くは坂道なのだ。
急勾配の下り坂を行くと、道端には1952年頃の写真
掲示板がある。
朝鮮戦争で北朝鮮から難民が押し寄せ、暮らし始めた
山間の密集した集落がここなのだ。
2009年から町おこし「マウル美術プロジェクト」が始
まり今の姿に変わったそうである。
日本から来た三人娘は写真を撮ってあっという間に



いなくなった。路地歩きでもするのかな？

「のどかな風景と丘の上のカフェで…」の誘い文句と悲惨な過去との凄いギャップを感じる。地震がないから建築基準などお構いなしか、急勾配で家はみんな半地下になる。韓国のオモニは足が曲がるほどよく働くが、働けなくなったオモニ達は10年後どうやって生きてゆくのだろうか。

地図を見ながらチャガルチ市場に向かう。

なんと先輩が勇気を出して、散歩のおじさんに道を尋ねているではないか！

途中、ユックとかチルとか聞こえたので、たぶん年齢だなと思い「我々の歳は77と70と65ですよ」これが通じるんですね。

おじさんは『チャガルチ市場』まで先導してくれました。接近術は韓国でも成功しました。刺し盛り、甘辛い煮魚、吸盤タコの踊り食い、アナゴの天ぷら、兜のチョイ辛スープ。チャミソルは「飲み干したら頭の上でグラスを逆さにして、コンコンとやるんですよ」3人で10万ウォン（一人3500円くらい）に飛び切り大満足しました。

後日、講座の先生に「それは日本人料金だよ」と聞いたが、二人には黙っておこう。

『国際市場』で先輩がブランドのバッグを買った。肩紐も革製だと注文は厳しい。

むかし「ブランド品の100%コピーは本物か偽物か」と問うたら、「偽物だ」と言われ、「くだらないことを考える脳ミソだな。私に問うな！」とくぎを刺されたが、論理的に考えたら本物のように思えるのだが…。

「百済に二つとしてない逸品が転じて“くだらない”という逆の意味になったんだぞ」なんて言っても、もはや聞く耳は持たない。この説も真偽は分からない。

最後はカジノ体験だ。『セブンラック』に行く前に、三人とも誕生日に2が2つ入っているのでルーレットで「天啓の2作戦」を伝授した。“くだらない”ときつと言われる。でも出目がかたよる場面があるのだ。理系人間じゃないので統計学的に説明できないが、経験則でバラツキとかたよりの波があることを知っている。

かたより始めた時がチャンス到来なのだ。

2→2とか5→5とかが続いたり、23→25→24とか数字がかたまる場面があった。

確率に収斂してくるまでは長い時間がかかるのだ。黒が10回以上も続いているし、私はかたよりの波を察知し、確信して20にフラワーをつくった。(注釈3)

シュルシュルシュル、カラン、コロン～白い球の行方を追う。

「頭が疲れた～」

「あのおじさん、1から36まで全部に5枚のチップを入れとうよ。計算できんね？

180枚の行って来いだよねえ。0に入ったらパーだよね」

「バック・トゥ・バックを見たよ」

「へえ～、専門用語も覚えちゃって！」

二人は人生で初めてのカジノ体験。楽しんでくれてよかったです。でも、そんな慎重に基石を置くようにチップを置かずとも、ディーラーが初心者をも勝たせてくれますよ。

好奇心を満たすには二泊三日に、もう一日ほしい。

「牛乳飲みたい」「永谷園のお茶漬け食べたい」「甘味がほしいな～」三日目にはこうなることは分っている。(注釈4)

昨日のあわび粥がいつもより緑ぼかったのが気になったが、案の定あわびの肝が先輩の腹にはきつかったのだろう。腹を壊してしまったが、米粒一つ残せない世代の人は平らげないとバチが当たる。「牛乳飲みたい。薄いパンが食べたい」は心からの欲求でしょう。

帰国の日の早朝、西面の「うまいもん横丁」の探索に出た。

まあ、タバコの吸い殻からゴミから汚いことこの上ない。オモニが何人もゴミを集めているし、もんぺの足を広げて道端で大根や野菜の茎を削っている。

2030年の釜山万博までには、日本の清潔さを見た人たちが景色を変えるだろう。

タクシーおじさんも、文化村の散歩おじさんも、港の案内アガシも、みんな優しい。でも、「今の大統領は何も知らない」と聞かされた時、それ以上は問いかけない。急に沸騰して知らない所で10万ウォンと請求されても、多分素直に払ってしまうから。

注釈2 『めんたいぴりり パンジーの花』は続編。福岡の人は福岡が大好きである。

私も福岡の人になったので、九州先行上映にすぐ行った。

中洲流の人達が何十人も登場する。

注釈3 フラワーとはベットの仕方です。

右図は17の周りにチップを並べ満開の花のようにした攻守一体の作戦といえます。

黒の17に入り、\$144と表示されています。「天啓の20」はコーナーベットはしてないので、144枚ではなくチップ5枚が108枚となります。



注釈4 私見、海外旅行の必携品と禁衝動買い

都こんぶとマーブルチョコ。パジャマのズボンと爪楊枝と洗体タオルは必携。

「パスポートがない」「車のキーがない」「時計がない」はよくあることで、特に高齢者は「いつもと違うところに、置かない、入れない、しまわない」

「免税店でタバコを買え」と言われるが、経年劣化したタバコと思い込んでいるので買わない。キムチを大量買いして後悔の弁を幾度も聞いた。「冷蔵庫が臭くなる」と怒られ、空気の違う日本で食べると別物に変わっている。

3. 海峡をつなぐ光と影

帰国の船のともに立ち、ロープを握りしめてセブンスターを吸う。大海原が広がる。高所恐怖症には恐ろしい喫煙所だ。私には天空と水面の臨界が魔界なのだ。飛行機や高層ビルは怖くない。海や川の上を走る伊勢湾岸道や福岡のヒルトンの方の湾岸道路は走れない。低地でも魔界領域と感じると、賀茂川や高瀬川の石段、石橋さえ渡れなくなる。松江から出雲大社へ行った時には、宍道湖の横の道さえ飛鳥川師匠に運転してもらった。

ビートルの曳波を見ていたらギザギザになっている。海面にギザギザ文様が残るのは解せない。「対馬海流に圧されて、へさきを西に向ける繰り返し」という解？に至った。神功皇后が半島に向かう際に、往路は対馬の東岸、復路は西岸をたどったのは安全の確保のためなのだと納得できる。ならば倭国からは済州島には行きにくいということだ。済州島が西の海でポツンとしているのがなんとなくわかる。

耽羅国は良乙那、高乙那、夫乙那の三神人が地面の穴から飛び出してくる神話を持ち、卵生・天孫降臨とは違う別の国。三姓穴は棒で丸く囲まれたところだ。耽羅国はずっと半島諸国の属国で、15世紀初めに李氏朝鮮に併合された。

私の知識はこの程度だが、講座の先生に深掘してもらった。この三神人の嫁さんは、日本国王の三人の王女だと『高麗史』に記してあるそうだ。奴国か五島列島の王様の姫様なのだろう。「創世記の耽羅に倭人が大きく関与していることは疑いない」そうなのか！もっと聞いてみたい。私の関心事のひとつは古代日韓関係史なのだ。



“もう、一度観たくなる“『海峡をつなぐ光』は日韓合作のドキュメンタリー映画で 6/25 より中部地区独占ロードショーと、本に挿んであったパンフに書いてある。

さて、何年の映画なんだろうかと本のおしりを見ると 2011 年 1 月 27 日初版発行とある。

2010 年は日韓併合 100 年、平城京遷都 1300 年。

2003 年冬のソナタで韓流ブーム始まる。2010 年は私が古代史に興味を持ち始めた頃だ。

この映画の影響もあり、半島に行き出したのかもしれない。

1400 年前、推古天皇が祈りを捧げた仏具「玉虫厨子」

1500 年前に造られたという新羅王朝の古墳群から出土した「玉虫馬具」

千数百年の時を超えほぼ同じ時期に両国の職人がこの二つの美術品の復元作業に挑んだ。

これだけで映画の内容は分るし、旅人役の入谷麻衣さんが案内してくれる。合作が嬉しい。玉虫研究所の芦澤七郎さんが、2005年に1000匹分の玉虫の翅を韓国にタダであげて、玉虫馬具の復元が出来たそうである。ヤマトタマムシは寒い韓国では育ちにくい。1500年前も倭国から新羅に翅を持って行ったのだろう。高句麗の王様の枕の三足鳥の装飾にも使われているそうだ。最近、福岡の船原古墳から玉虫馬具が出た。玉虫育成ノウハウも彫金技法もデザインもみんな文化。海峡を越えて広がり、教えたり教えられたり、倭や三韓のテイストで芸術品が出来上がってゆく。「どっちが早い？こっちが起源だ！」なんてことに、目くじらを立てることもないが、ひとたび歴史になると捻曲仕掛人が暗躍し、国境を越えて影を伸ばす。

大伽耶の地の高霊市にある加耶大に「高天原故地」の石碑があり、2014年の見物旅行の記念撮影が右の「天照大神」です。どう思いますか？ やりきれないし、アホらしい。李朝時代の奴婢が呉服を着たようなお姿で、これが大神だそうです。アマテラスオオミカミとハングルでルビがふってあります。「朝鮮民族が日本を征服し、大和王朝を建てた」と発表して、こんな石像まで造った日本の大学教授にやりきれないのです。



「弁辰弥烏邪馬臺」と刻まれた石碑は何だろうか！



当時、弁韓、辰韓は力がなく常に馬韓から王が選ばれ三韓に君臨していた。弁韓の中で抜きん出た“べんしんみうやまと”は魏に朝貢し「親魏王」の印綬を授かるや「弁辰弥烏」を除外し「邪馬臺」国を主張した。その後、高句麗が南下し、百済が台頭し、斯盧国が強勢となり、これらの新興勢力の狭間にあった“やまと国”（邪馬台国）は4世紀をもって滅亡したのである。

論外なことに反論する気も起らないが、物語を作り込む天才がいる。

加耶の地で講座の先生に“喝”を入れてもらいたい。ミステリーと勘違いして古代史かじり始めの人が迷わないように。

講座の先生にお願いしてみよう。金海や高霊や慶州の歴史旅で、古代倭国との関係をレクチャーしてもらえないかと。

歪曲遺物に仕置人から何喝入るか、凡人生徒みんなで笑い飛ばしてみたい。

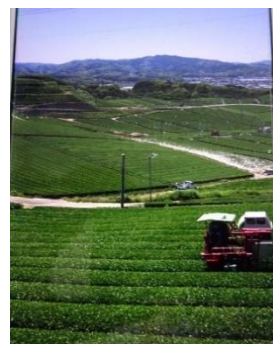
4. 八女のお茶畑

「古代史の宝庫だから一緒に行くかい？徐福や磐井にまつわる所が沢山あるよ」と誘われて、喜んで八女のお茶畑歩きに参加しました。九州オルレ八女コースです。(閑話1)

「八女って佐賀ですか？」と聞いてしまった。

「大垣って愛知県ですか？」とも聞かれたので恥ではない。

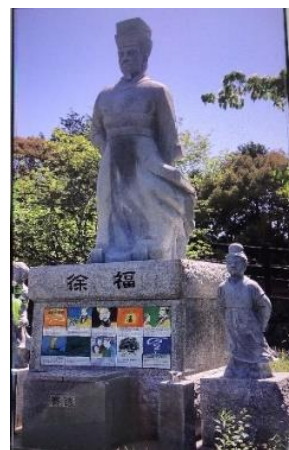
徐福伝説は日本中にあるが、九州では佐賀に多いらしい。



徐福は謎と云うよりも、荒唐無稽な物語として頭に残っていたが、八女から帰って『○○○徐福の秘密』を再読してみたら、既にも上書きされていて、どうでもいいことは頭から消えていた。

「BC219年秦の始皇帝の命で、不老不死の薬を求め、徐福は童男童女を含め3000人を率いて渡来し、(ここまではみんな知っている、次からが問題)出雲にたどり着いた。出雲大社は徐福がつくった。徐福はモーゼの血脈を継ぐ子孫である。徐福は出雲を台与の日向と統合した際、都を奈良とした。そのころ徐福は名前を神武から崇神へと変えた。応神天皇の御代に、弓月君が秦の始皇帝の末裔を率いて渡来してきた。その集団は秦氏。益田岩船は弓月君が徐福と入るためにつくった墓である。応神天皇は弓月君である」根拠なき物語が延々と続き、こんな本も読んでいたのだ。憑き物がついたとしか思えませんが、ロマンでもなく、ミステリーでもなく、一体何なんでしょう？

『童男山ふすべ』という行事で紙芝居を小学校の児童がやるそうですが、子供たちが徐福伝説の伝道師になっているのですね。大人になったら、この記憶とどう対話するのだろうか。童男山古墳は六世紀後半の古墳で、徐福が来た頃と800年の差があり、後世の創作と分かります。大陸からの渡来人の象徴が徐福なんでしょう。船団が難破して日本各地にたどり着き、“我が地こそ徐福が来た所なり”なんでしょう。



もう8キロ歩いた。八女の新茶を飲めるところが見つからない。江崎食品さんでラムネを一本飲んで休憩する。子供の頃は苦労したものだが、クビレの構造が分かっているので簡単だ。400円と云われても、欲している時なので抵抗はなかったが、4人で400円だった。おじさんたちはこういうことに無頓着だ。コカ・コーラのスタイルと似ているが、コーラのボトルの形態は特許のカタマリと聞いたことがある。ミソはあのクビレでコーラが10ml少なくて済むことだ。終点の岩戸山古墳にたどり着く。磐井の墓と云われている前方後円墳を見物する。

527 年「磐井の乱」

継体天皇が新羅と通じている筑紫君磐井をやっつけに来た。ヤマト王権が百済を助けるために、九州の諸豪族に軍事的負担を強いたので、筑紫君磐井を盟主として反乱を起こした。これが通説であるが、最近では「九州独立戦争」という説もあるらしい。

「石人・石馬」や「装飾壁画」が見つかったりして、ここはヤマトとは違う文化を持つ。敗れた磐井の息子“葛子”は糟屋の地をヤマトに差し出し、許され筑後国一帯を治める。

こんな流れのようだが、ヤマト軍の将軍は物部麴鹿火で物部氏はこの地域に移り住んだ。物部ゆかりの地名や神社の名前などが多く残っている。パンフのここが分からない。

一昨年、師匠の盆帰りの時に博多から鞍手まで、ニギハヤヒ第2弾で物部の地を巡りながら帰った。古代の糟屋の地がどのあたりか分からないが、通っていったのだろう。

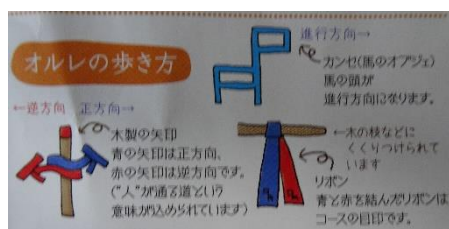
そもそもこの辺りはもっと古くからの物部の祖地ではないのか？

どうも場所と時間軸が揺らぐ。

歴史を纏向の邪馬台国？から始めているので、こんな解説になるのだろうか？

閑話 1

九州オルレ八女コースは、山の井公園→童男山古墳→岩戸山古墳までの 11 キロの初級コース。「オルレ」なるものは済州島の方言で、トレッキングコースの総称を意味するそう。これがコースの目印で韓国テイストを感じるが、どうもピンとこない。



上図は「馬の方向に進みなさい」だが、椅子に見えて「ここで休憩しなさい」と思える。

左図は「青が正方向、赤は逆方向」

でも色で識別できない外国人は多いそうです。矢印に見えず、「止まって向きを変えなさい」と思える。

右図はこの道で OK。文句を言うなら、対案ですね。

ここは 11 キロの八女コースだから、八人の茶摘み娘が 1 キロごとに増えていき、茶摘みの向きが方向。ゴール近辺には八女茶が薫る湯呑のピクトグラムを置く。

創意工夫が行過ぎても混乱しますか？ きっと、外人は「クール！」と言うでしょう。

5. ミステリーツアー（番外編）

何もない日が 4、5 日続くと刺激を注入したくなる。ミステリーツアーなるものに誘われて、構えもなく参加した。「旅のヒント集」これだけだ。博多駅からどこに行くのか？

- ① 人気のパワースポット〇〇〇〇へご案内
- ② 〇〇〇にて新鮮な海産物や農産物のお買物
- ③ ご昼食は〇〇〇にて優雅なフレンチをご賞味
- ④ 〇〇〇〇にて季節のお花を観賞

博多駅筑紫口9時出発の15時着で、“糸島方面じゃないのか？”が多くの声で、これは5 W1HのWhereだけが謎のツアーだ。

答は①宗像大社②道の駅むなかた③オテルグレイジュ④筥崎宮あじさいまつり

昼食の後に新原・奴山古墳群にも寄ってもらえたら満点をつけるのに、時間の余裕はあるのに企画マンが省いたのはWhyだ。

「また、ガタガタ言ってるね。何が5 W1Hだ！」

「思考を整理する大事な事なんだぞ。稟議書なんかは5 W1Hが抜けてたらダメなんだ」

「あのね、80%がリピーターを生むんだよ。あんたの脳ミソで企画は無理だわ」

筥崎宮の紫陽花は穴場でしたが、やけにヒョロヒョロした紫陽花でした。筥崎宮と香椎宮を混同していたようだ。神功皇后はともに御祭神。楼門の扁額をジッと見みると「敵国降伏」と読めるがWhatだ。

「武運長久」や「蒙古退散」ならば単純頭には分かり易いが「違和感あるねえ」と語りながら、いわれを探した。「武力で相手を降伏させる(霸道)ではなく、徳の力をもって導き、相手が自ら靡き降伏するという王道である我が国のありかた」とあった。「王道、我が国」ときたか！徳の力で民が穏やかに生きることが出来たのはいつのことなのか？

どうもスッキリしない。中国風味が強いなあ。2000円のクーポンで「すもつホルモン」と「ふぐ皮明太風味漬け」が買ってあるから、今夜はこれでお口直し。



6. 博多祇園山笠の時

飛鳥川師匠から毎年“博多祇園山笠の扇子”を頂き、今年は「平成二十九年一番山笠中洲流」を使っている。これで背中を搔いたり、枝豆を扇いだりしているので直ぐに仲骨が抜けて残り2本になってしまった。

いつも見て、博多の祭りに愛着が湧いてきているが、午前四時五十九分の“櫛田入り”を見ることは根性ナシには無理である。7月10日に田主丸の先輩と、飾り山笠巡りをする約束をしていた。8月には忌宮神社と下関夏フグ萬食計画を立てるつもりでいた。

そう数方庭ミステリー解明ツアーです。ポイントは新羅のジンリンと数方庭の由来らしき馬韓の「蘇塗(ソド・ソツテ)」がどう関係しているのか、です。

お祭りが特に好きでもなく、子供の頃に村祭りで「なまはげ」のような真っ赤な物の怪に追いまくられて怖かったことぐらいしか記憶がない。

元々、地の人間ではないゆえに祭コミュニティに所属出来ず、仕切りのじいさんや怖いおじさんに鍛えられることはなかった。

中高は質実剛健・協同親和の校訓で丸坊主、高2の記憶がほとんど無く、数学や化学はドンドン謎の学問になって行き、本当に物事が分らなくなってしまった。

京都で新生活が始まると、坪田君、島津君、福沢君、黒田君と友達になった。

ノンポリ集団も円山公園に集まって旗を振るぞ〜が時代の空気です。

『青春の墓標』、『我が心は石にあらず』、『二十歳の原点』70代の方は読んででしょう。高野悦子さんの「お前は、なにくそ！というやる気が足りない。毎日、新書を一冊よむくらいに頑張れ」に影響されて、乱読していた。

下宿はお寺の離れ。

彼らが勝手に入り込み、五人打ち麻雀が始まる。二抜けは書棚の本を読んで待つ。

大瀧詠一の『楽しい夜更かし』そのものです。止められない、止められないで麻雀は続き、ネスカフェ大瓶が一晩でなくなる。5人ともチェンスモーカーで九龍の巣窟みたいになる。お墓で住職さんが読経しているのに、ジャラジャラの音でさぞかし迷惑をかけたと思う。中華、革マル、全共闘、バンドにフォークに学問に、何でもいいが、何でもできた。でも、5人組は麻雀コミュニティを形成して麻雀だけにのぼせてしまった。

ビートルズは解散し、学生運動は終焉し、コピペ卒論を出して4年が終わった。そして、何もしなかった後悔と吉田拓郎の『祭りのあと』の気分を懐いて、故郷の銀行や百貨店に就職先を見つけて帰っていった。と云うことは、50年経って整理してみると、人生の祭りの時は、その時その場所の濃密な関係の時だったのかもしれない。（と思いたい）

福岡への引越の時に、麻雀の点数表が出て来た。

社会人になってから精算する約束で50年も経ってしまったが、会って精算したい。

留年した岸和田の黒田君の末は分らないが、今は一番楽しい老人になっているような気がする。だんじりに誘われた記憶があり、仕切りの長老になっているかもとテレビに映ると目が探す。博多の山笠と同じようにあんなコミュニティが羨ましい。

夏になると「破れかぶれだ！神輿に乗って暴走したい」と思いを抱くが、「何考えてるの。いくつになってもアホやねえ」となるのは分かっているが、男子に宿る闘争本能あるいは反作用の激情が湧いてくるからしょうがない。

私の祭りには、不発弾のような重たい淋しさと妙な怖さがつきまとう。祭りのあとの気分が嫌で遠ざけていたような、あるいは奇怪なものは見てみたいような…青春の無為と拓郎の『祭りのあと』が相当影を落としているようだ。

東北三大祭り土佐のよさこいで踊る広末涼子さんは見てみたいと思うぐらいで、それがこの夏、よさこいはどうでもよくなった。

あとは奇譚の香りがするねぶたと数方庭祭くらいしかない。

ねぶたとねぶたがあるが、釜山をぶさんと云いBUSANと書くことと同じなのだろうか？

「まさか」が起きてしまいました。



7月10日朝6時。「耳納山系あたりが土砂崩れで酷いことになっている」と田主丸の先輩から電話があった。床上30cmまで水が上って怖かったと思う。3日後には先輩の友達が集り人海戦術で片づける。後期高齢者ばかりだが、力がなくて、技もないのは私だけである。一枚50kgにもなった畳を軽トラに載せようとする、畳がへなっとなって腰骨

が折れそうになる。泥や土は、バケツ一杯が重くて重くて持ち上がらない。

グチャグチャになった箆筒も食器も布団も梅酒も捨てるしかない。

「いっぺんに終活が出来て良かったよ」と先輩は気丈に云うが…。

水兵さんのようにロープを操る80歳の方と軽トラコンビを組み、諸々お話が出来た。

「9時半受付の4時半閉門だよ。激甚災害地なのに、この対応でいいのかね？」

車列が続き、待つ待つ捨てるまで2時間半。派遣された職員さんに「帽子をかぶらないと熱中症になるよ、チャントかぶれよ」とロープおじさんは最初は優しく声をかけている。支援の唐揚げ弁当を、待ちの車中で食べる。それで観察しちゃうんですね。

「ちょっと、昼の1時間しっかり休憩ととるぞ。まさか、36協定なのか？」

「被災者の車が行ったり来たりしとる。一方通行で流さんと」

「日の出から日の入りまで寄り添わねば」

暑い中派遣された職員の皆様ご苦労様です。

でも、被災者はゴミを捨てる前にゴミを掻き出し載せる作業で、もうクタクタなのです。

「構内作業は流れ化だよ。仮置きはロスだ。置き場を表示して見える化せにゃ」

「出入りの導線を工夫したら、不満が減るのにねえ…」

「どうして民間の人や企業に応援を頼まないのかね」

「物流・生産管理のプロは企業に沢山いるし、山笠総務の仕切りおじさんだったら32秒でやっちゃうよ」

「泥の捨場は轍の方向に進んで左に曲がった所」と指示されても、「轍ばかりだし、そんなところに突っ込んだら出られなくなるよ」と不満げに返しても、急かされる。

「誘導の仕方が違うんだよな…。プツンしちゃいそう」この泥捨てで長靴の中に泥が流れ込みグニュグニュ、汗で粘体両生類のようになってしまった。

博多山笠も数方庭祭も、やっぱり祭りは縁遠い。

耳納山系からも筑後川からもこんなに水が出ることを、田主丸の河童だけは知っていた。

前に茶化してしまいすみません。「秋には旅行にいきましょう！」先輩はうなずいた。

金属加工が生業の、平歯車を拭いていた、おじさんの傾いた姿が頭から離れません。

みなさん頑張ってください。